

公開講演会「博物館が危ない！ 美術館が危ない！」の開催（報告）

-----

日本学術会議主催公開講演会の開催（報告）

「博物館が危ない！ 美術館が危ない！

指定管理者制度・公共サービス改革法の落とし穴 - 」

期 日：11月4日（土）

場 所：東京大学理学部小柴ホール

学術・芸術資料は、人類文化の創造と学術研究の発展に等しく役割を果たす基盤的な文化資源であり、次世代に継承されるべき重要な遺産です。「簡素で効率的な政府・地方自治体」を目指す市場化テスト（官民競争入札）や指定管理者制度が広く導入される中で、日本学術会議は、その保存・管理体制が、経済効率優先の対象とされつつある現状に強い危機感を抱いています。本公開講演会は、公共サービス機関としての博物館・美術館の本質的な役割に焦点を当て、その望ましい在り方を共に探るため開催されたものです。

冒頭で、学術・芸術資料保全体制検討委員会青柳正規委員長からの御挨拶、提題、日本画家の平山郁夫氏からのメッセージの紹介がありました。

そして、前沢和之横浜市歴史博物館学芸課長（特任連携会員）から「博物館への指定管理者制度導入の現状と問題点」、樺山紘

一印刷博物館館長（第一部会員）から「ミュージアムと人文科学資料」、馬渡駿介北海道大学大学院理学研究科

教授（連携会員）から「我々は次世代に『もの』を残す」、井上洋一東京国立博物館事業部教育普及課課長（連携

会員）から「博物館におけるサービスの本質と将来ビジョン」、白藤博行専修大学法学部教授（連携会員）から「博物館・美術館と学術・文化行政の公共性」

と題する興味

深いテーマでの御講演がありました。

休憩の後は、司会に木下尚子熊本大学文学部教授（第一部会員）、前田富士男慶應義塾大学文学部教授（第一部会員）が加わり、熱のこもった討論会が行われました。最後に、木下教授から「提言に向けて」として、講演会のまとめと閉会の御挨拶がありました。

当日は、天候にも恵まれ、約 150 名の参加者が集い、盛会裏に終わりました。

【問い合わせ先】日本学術会議事務局企画課情報係

( Tel:03-3403-1906、p228@scj.go.jp )

=====

日本学術会議ニュースメールは、日本学術会議第 20 期会員・連携会員、日本学術会議協力学術研究団体に配信しています。転載は自由ですので、関係団体の学術誌等への転載や関係団体の構成員への転送等をしていただき、より多くの方にお読みいただけるようお取り計らいください。

また、メールアドレスの変更等がありましたら、事務局 ( p228@scj.go.jp ) まで御一報いただければ幸いです。

=====

発行：日本学術会議事務局 <http://www.scj.go.jp/>

〒106-8555 東京都港区六本木 7-22-34